

出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔教育学部〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

本小論文の問1では、内閣府調査による「日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～社会規範（2018）」に示されている「他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ」ということに関して、我が国と諸外国の若者の意識の差異が明確に示されている図を提示している。また問2の課題文は、「心の力 第2章 なぜ生きづらいのか（集英社新書）」の一節を引用している。その著者、姜尚中は、「いまわれわれ」が、「生きづらくなった・・・本質的な理由」の1つに価値観が画一化し、「代替案」というものが考えられなくなったことを挙げている。そして、「こころの豊かさとは、究極のところ、複数の選択肢を考えられる柔軟性があること」と述べている。現代は、コロナ禍で「新しい生活様式」を求められているばかりでなく、世界的にも気候変動・国際間の摩擦等により多くの課題や危機を感じる情勢にある。その中で、これまで馴染んできた対処法だけでは困難な事態において、新たな解決策を模索し、柔軟に対応する力が求められている。そこで教職・保育職をめざす受験生には、本小論文が国際的な視野に立ち、こうした社会情勢をたくましく生きるための力とその育ちについて考える機会となることを期待したい。

以下に、設問に従って留意すべき点を挙げる

- ①図1のグラフで示されている情報を正しく読み取ること
- ②著者の主張を的確に読み取り、その論旨を明確に示すこと
- ③課題文とは無関係な論の展開で、自己主張に終始することがないように、②を踏まえて「現代社会をたくましく生きるために必要な力」について自分の考えを述べること
- ④②と③を合わせて、400字以内でまとめること
- ⑤誤字に留意し、読みやすい文章構成にすること

〈模範解答例〉

問1 「他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由」という考え方について、肯定的な回答がアメリカ、イギリスなどの先進諸外国では八割前後であるのに対して、日本の若者は、約四割程度と低くなっている。(97字)

問2 図1が示すように、日本人は諸外国に比べて、人の目や周りの意見を気にして生きる傾向にある。一方、著者は、私たちが生きづらくなった本質的な理由の一つとして、人びとの価値観が画一化し「代替案」が考えられなくなったことを挙げている。そして常識的によいといわれていること以外にも、自分にとって最適な生き方が何かあるはずなのに、多くの人がそれを見つけれなくなっており、今は生きづらい世の中についていけない自分を否定しがちであると指摘している。

このように人の目を気にし、画一化された生き方ではなく、自由に自分らしさを考えるためには、著者が述べるように、複数の選択肢を考える柔軟性や、もうひとつの現実を想像する力が役に立つ。この生きづらい現代社会で子どもたちがたくましく生きるためにはそうした代替案を考えられる柔軟性と想像力を育むことが必要であり、その役割が保育・教育に期待されていると考えられる。(392字)